

嬉 望

第 10 号
平成25年10月17日
兵庫教育大学
教職大学院
学校経営コース
大学院生編集部

「嬉望」は、本学加東キャンパスが嬉野台地区にあることと、「希望」とをかけた造語です。



実り多き後期の学びを！

朝晩の涼しさをようやく感じるようになりました。季節は秋に向かい始めました。

心配なことに九月の豪雨で、関西地区でも被害に遭われた方がいらつしやいます。一日も早い復旧を、一同心よりお祈りいたします。

本学でも十月から後期の授業が始まりました。各地での中間報告会を終えて、二年生のインターンシップも大詰めを迎えています。「理論と実践の往還」を共通のミッションとして、各地で取組が展開されていることと思えます。実習受入先の皆様、引き続きよろしく願います。

さて、後期の学びがさらに深まることを期して、今号では夏季休業後半のフィールドワークやインターンシップ中間報告会の様子を中心に伝えさせていただきます。

インターンシップ 中間報告会から

【鳥取会場 9月28日(土)】

鳥取県立米子東高等学校同窓会館二階勝陵ホールにて、県教育委員会小中学校課・高等学校課から三名のご参加をいただきとともに、修了生五名も見守られる中、中間報告会が実施されました。

小学校統合に関わり様々な立場の人の夢を実現する新設校の学校経営や、統廃合に伴い学校・地域双方の活性化を目指す社会学連携を通じた取組の発表、定員割れが生じた複



数学科校と進学校の比較対象に基づく改善策の提案、地元教育委員会の示す小中一貫校プランとの関わりに基づく現任校の現状把握の発表など、インターンシップでの体験を踏まえた報告が二年生三名からなされました。修了生からは現実的な視点からの質疑や提案が多く出され、改善プランの方向性がより明確化されたように思います。

修了生との旧交を温めつつ県全体で院生の学びをバックアップしようという機運を確かに生み出した中間報告会となりました。

【山口会場 9月29日(日)】

山口市小郡ふれあいセンターにて、県教育委員会義務教育課 野口政吾 主査を始め、修了生七名の参加もいただき、二年生三名が発表を行いました。「在勤時に比べて改善が見られる点・新たに見つかった課題をじかに感じられた」「どこから着手していくべきか検討し、現任校の職員にも理解を図りたい」「イン

ターンシップを通じて改善プランの方向性を見直す必要が生じた」など、経験を踏まえた生の声が聞かれました。

参加者からは「前例の改善プランとの継続性も考慮する」とよい、「学校のミッションを再考する必要がある」といった提言もありました。担当の先生方からは「現場で聞き取ったことが課題となるのではなく、あくまでも自分の興味・関心に基づき現状分析をすることで改善プランを書こう」という助言がありました。

これらを基に、二年生は実習後半に向かいます。一年生は改めて学びを深める決意を新たにしました。

ターンシップを通じて改善プランの方向性を見直す必要が生じた」など、経験を踏まえた生の声が聞かれました。

参加者からは「前例の改善プランとの継続性も考慮する」とよい、「学校のミッションを再考する必要がある」といった提言もありました。担当の先生方からは「現場で聞き取ったことが課題となるのではなく、あくまでも自分の興味・関心に基づき現状分析をすることで改善プランを書こう」という助言がありました。

これらを基に、二年生は実習後半に向かいます。一年生は改めて学びを深める決意を新たにしました。

【兵庫(加東キャンパス)会場 10月5日(土)】

兵庫県内勤務者の中間報告会は、本学加東キャンパスにて実施されました。八名の二年生が発表を行い、11名の一年生が聴講しました。

当日はオープンキャンパス等も並行して実施されてお



り、発表会についても一般公開で実施されました。

二年生からは各校でのインターンシップの状況が報告され、実際にどのようなことに取り組んでみたかという具体例について多数報告がありました。参加した一年生からは、「インターンシップでの具体的な様子がイメージできた」、「いずれの学校・行政機関でも、やはり人材育成・人材活用が重要な課題になりそうだ」との感想が出されました。

担当教授からは、「立ち位置を明確にした改善の方向性を打ち出すことが重要」、「具体例の列挙にとどまらず、大学院での学びを実際の改善プランにどのように活用していくのかを常に念頭に置いた取組を」という示唆が与えられました。

二年生にとってはインターンシップ後半に向け、方向性を調整するよい機会になったのではないかと思います。



9月17日(月)
八王子市 南大沢地区
「熟議」のファシリテート

東京都八王子市立南大沢中学校で、校区内の地域住民・小中学校教職員・保護者が一堂に会して「熟議」が実施されました。同校は「コミュニティ・スクール」での熟議と協働の充実に関する研究」の委託を文科省から受け、地域との連携を進めています。同校区では全三回の予定で「熟議」を実施することになっています。同校運営協議会からの依頼もあり、本学の日渡教授を始め一年生五名がファシリテーターとして参加しました。



40名近い参加者が四つのグループに分かれ、『地域の子どもたちをどんな人に育てたいか?』というトピックについて二時間討議を重ねました。院生が各グループの進行役(ファシリテーター)を務め、最終的にはKJ法等を活用しながら

一枚の模造紙に論点を構造化し図示しました。

話し合いの中で「ニュータウンとして開発された時期とは地域も様変わりした。互いの関わり合いについて見直す時期だと思う」「子どもたちのよさを伸ばすには、お互いが成長を看取るべきだ」との声も多く聞かれました。

総括として日渡教授からは、「以前はコミュニティとしての関わりがあった。今後地域をどうするべきかは、自分たちで考えなければならぬ」との示唆がありました。ファシリテーターとして参加した院生からは「まちづくりに貢献し成果を上げることの責任の重大さを実感した」との声が聞かれました。今後南大沢中学校区では、具体的な行動プラン策定に結びつくように、さらに議論を深めていくこととなります。



10月3日(木)
西脇市教育振興基本計画
第3回策定委員会

九月に続き、西脇市教育振興基本計画(後期計画)第3回策定委員会を、一年生11名が傍聴しました。今回は基本計画前期の現状分析に基づく個々の行動計画や、その成果指標等について検討がなされました。会の冒頭で本学の浅野教授から「紙面の見せ方よりは中身について忌憚のない意見が聞きたい」との投げかけがあり、各論の内容について意見交換がなされました。

参加した一年生からは「目標↓具体的な行動計画↓成果指標の整合性が市民にとっても可視化されている必要がありそうだ」「やはり前期計画の進捗分析など、現状認識が確かであることが重要だ」という感想が出されました。浅野教授からは「まとめるのに時間はかかるが、ワイガヤな作業部会からは創造的で総意に基づく原案の策定が可能になる。原案の立て方についても着目してみるとよい」との示唆をいただきました。院生の所属自治体でも教育振興基本計画が策定されているところは多いと思います。

今回の傍聴を通じて得られた視点を活かして計画の全体像を見ていくことで、各自治体の願いや方向性が明確になっていくのではないのでしょうか。



一年生 後期
専門科目の紹介
その1

さて、今号から数回に渡り一年生後期の専門科目を紹介していきます。前期での概括的な学びに加え、後期では個々の項目をさらに深く追究していくこととなります。

【教育行財政の制度と運用 担当：日渡教授(火曜3限)】
学校管理職と教育行政職には、学校のいわば外的条件である教育行政と教育財政についての知識、運用方法・対応方法を習得する必要があります。そこで、授業では教育行財政の原理や仕組みを知ることから始め、「理想の学校管理規則づくり」の演習を行います。

さらに管理職や教育行政職としての識見を高める意味で、国・県・市町で教育行財政に携わっておられる方をゲストとして招へいし、政策に関する講義を受ける予定です。渉外から運営まで学生が手がけ、企画遂行能力も高めます。

【教育法規の理論と実務演習 担当：御厩教授(火曜4限)】
後期から本学で教鞭を執られる御厩教授の授業です。以下の三つの力を高めることを目的としています。

- ①法的に考え、判断し、行動できる(リーガル・マインド)
- ②法令、判例等法的情報を探し出し、正しく読める(リーガル・リサーチ)
- ③スクール・コンプライアンスについて、分かりやすく周知徹底できる(リーガル・プレゼンテーション)

演習としてNISM(学校経営に報道の活用を)メモを毎時準備し輪読したり、ケース検討のプレゼンテーションを行ったりします。また神戸新聞社の共催による、おまめ大豆記者、プログラムを実施し、情報発信のスキルを高めていきます。

